

「色弱」の不便さとCUD的改善方法2

小さい面積、離れたものは色の識別が難しい

文章中の文字や、細い線は色の面積が小さいので色が見分けにくくなります。特に、見分けにくい組み合わせは、赤と黒の組み合わせです。よく強調に赤を使ったりしますが、実は逆に見えづらいのです。



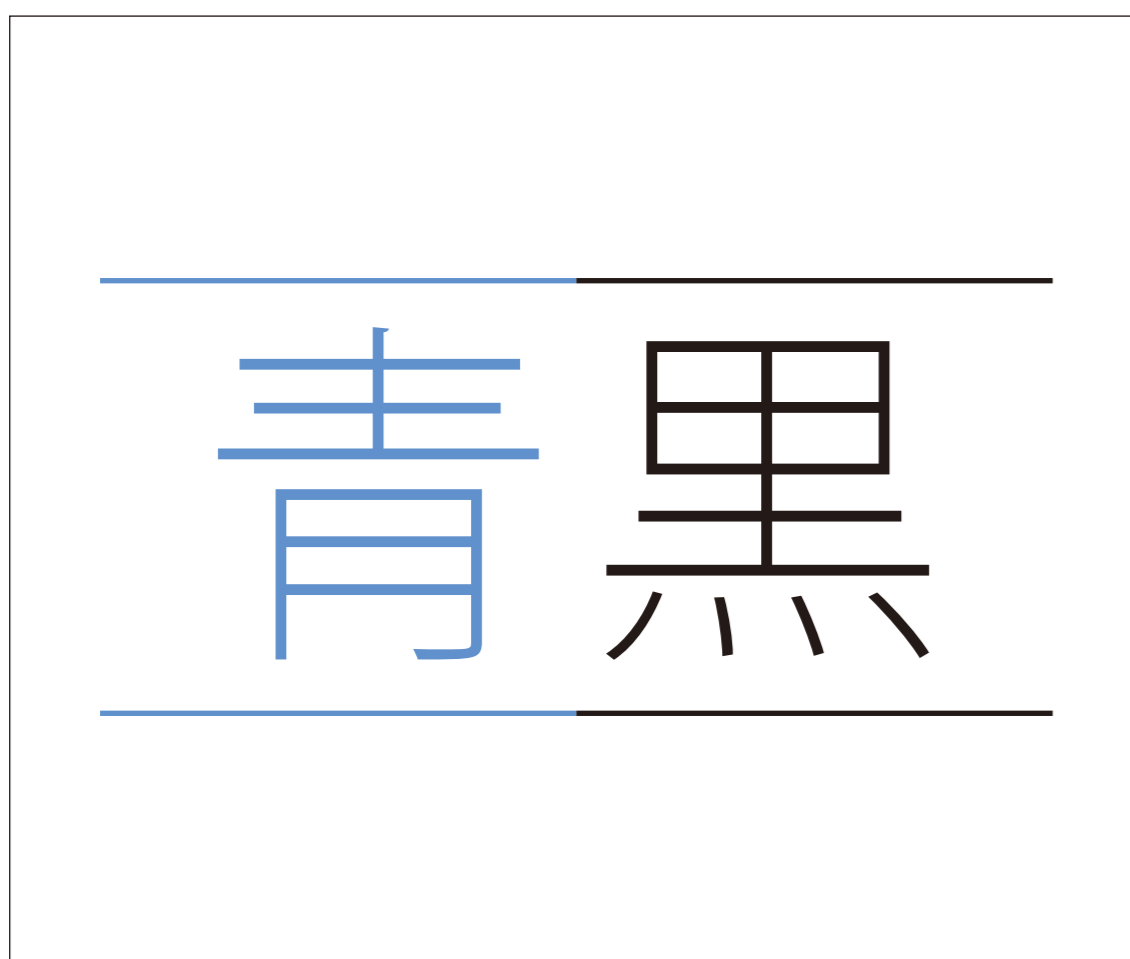
一般色覚者の見え方



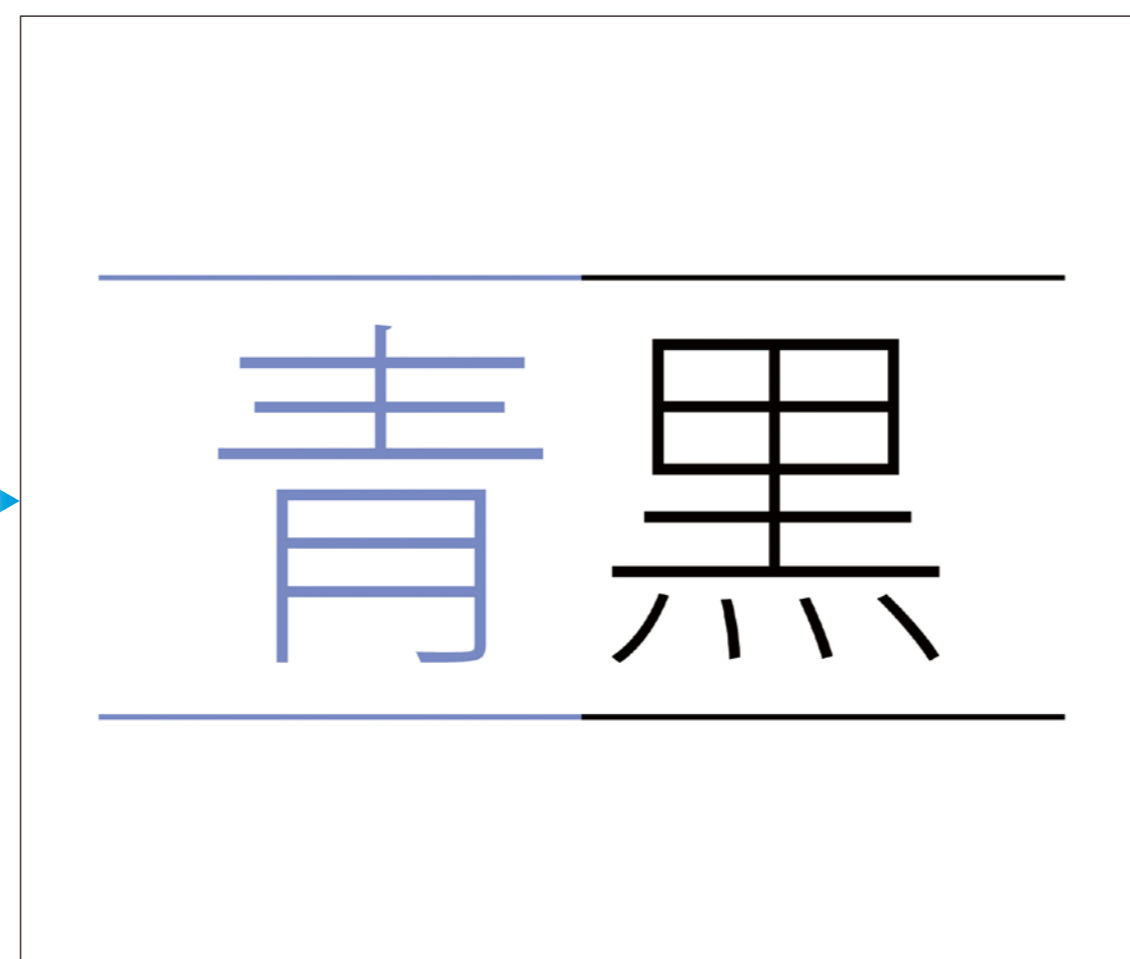
色弱者(P型)の見え方

CUD的改善方法

見分けやすい組み合わせの色にする。書体を変えたり、太くして強調する。



修正事例1・・・色の変更(金赤→青)



修正後の見え方



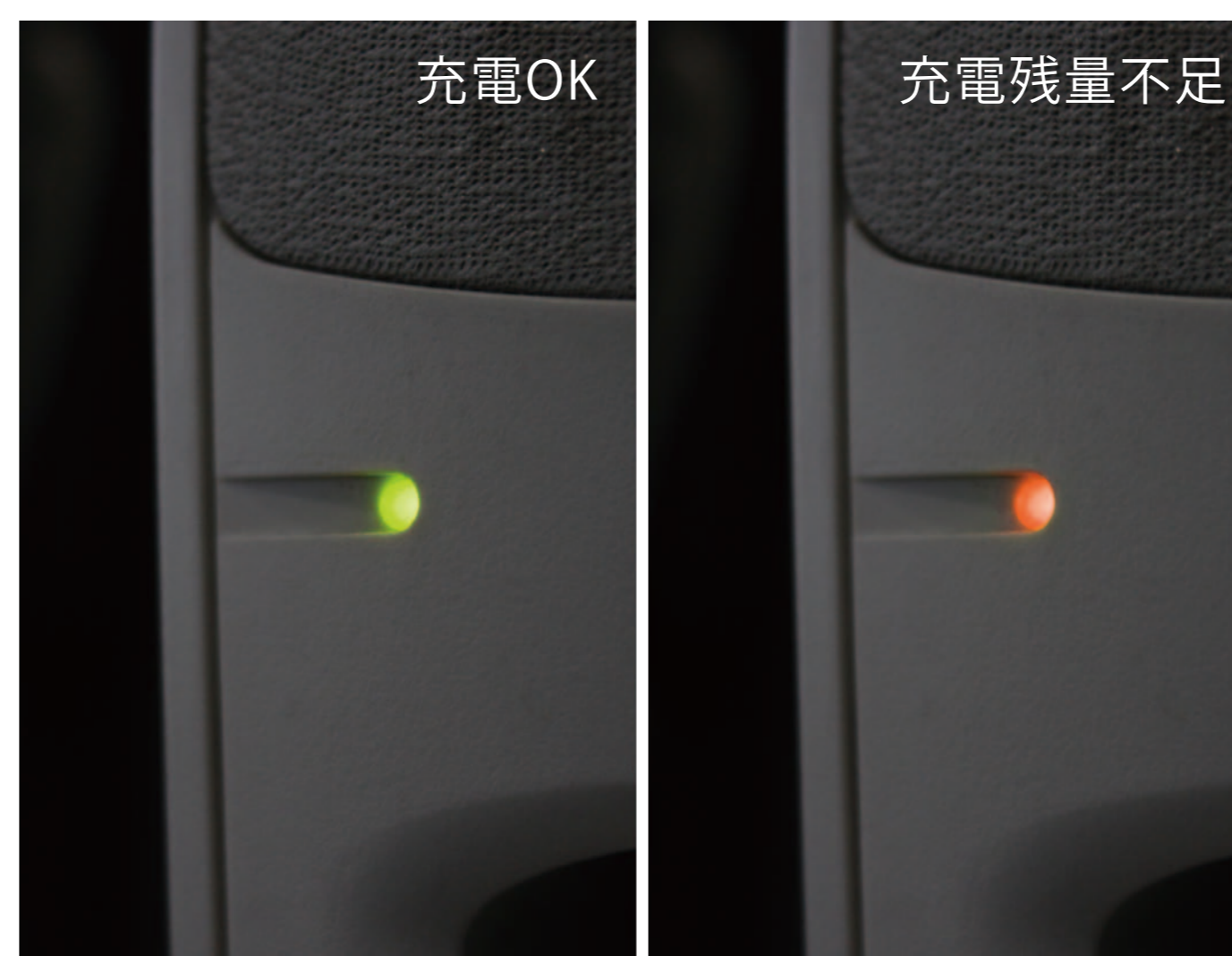
修正事例2・・・太さ+色の変更(金赤→橙色)



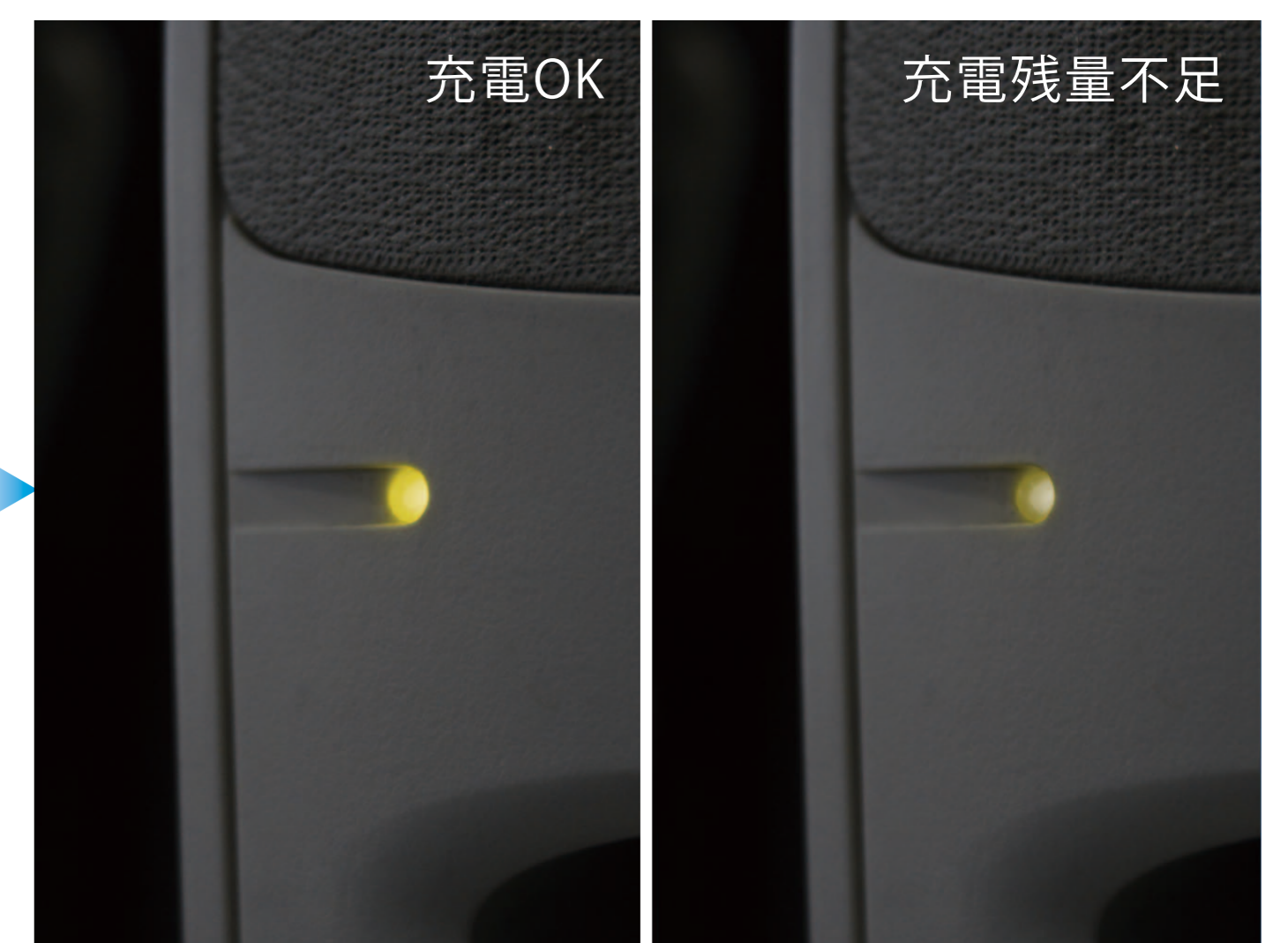
修正後の見え方

光る色は特に間違えやすい

充電中のパイロットランプやレーザーポインターLEDの赤色・黄色・緑色は、物体の色よりも色の判断がしにくくなります。特に赤色は、点灯していることに気づかなかったりします。



一般色覚者の見え方

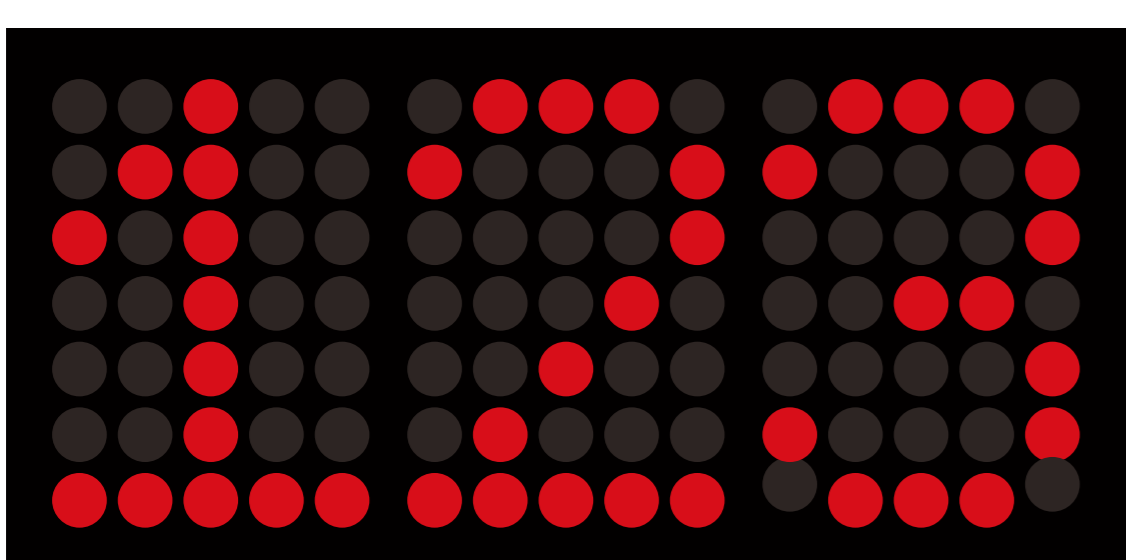


色弱者(P型)の見え方

CUD的改善方法

多くのメーカーからCUDに配慮したランプが販売されています。よく確認して購入してください。

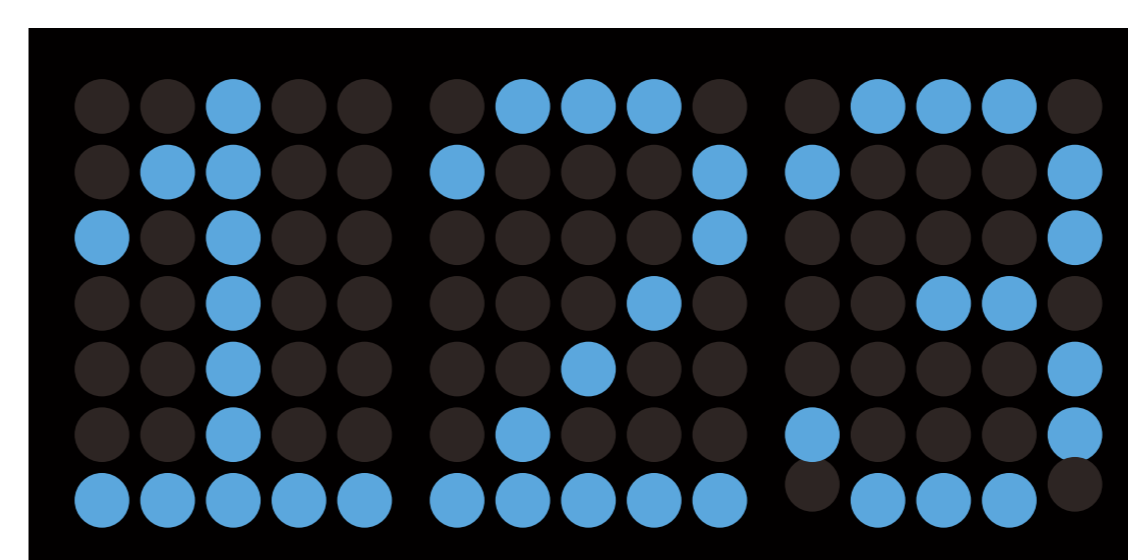
公共施設の電光掲示板で、黒い背景に赤い数字が光るモノがよく使われています。P型の人には暗くてよく分からない場合があります。



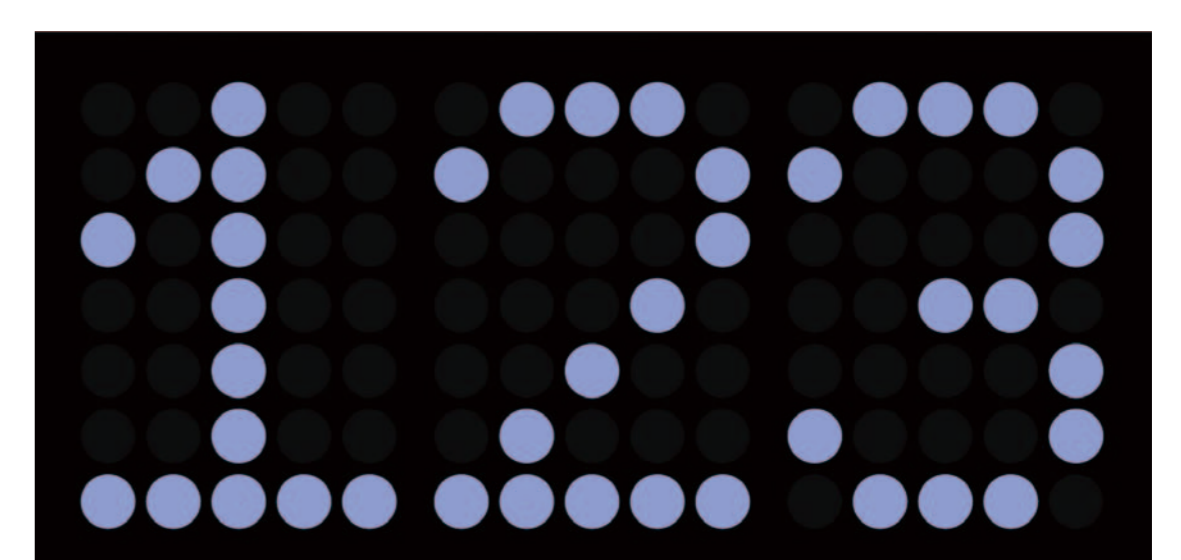
(オリジナル) 一般色覚者の見え方



(オリジナル) 色弱者(P型)の見え方



修正事例・・・色の変更(金赤→水色)



修正後の見え方